

文化史 19世紀欧米文化史② ～美術史編～

1. [1. _____]

18世紀末～19世紀初、フランスを中心におこった古代ギリシア・ローマを規範とする格調の高い、均整のとれた美術様式。宮廷を中心に発達した。

(1)[2. _____]…フランス革命の際にはジャコバン派の一員として「マラーの死」を描いて理性崇拜の演出を担当。ナポレオン時代には宮廷画家として「戴冠式」や「アルプス越え」を描いた。

マラーの死	戴冠式	アルプス越え
		

(2)[3. _____]

- ・ダヴィドの弟子。古典主義絵画の完成者とされる。
- ・表作「4. _____」。(右図)
 ▶ゆがめられたプロポーションの後ろから見られるけだるいポーズの、愛妾を描いている。





2. [5. _____]

古典主義に満足できず 19世紀初めからおこった美術様式。情熱的・幻想的で、題材も強烈。

(1)[6. _____]…フランス=ロマン主義の代表的画家。強烈な色彩による劇的表現を用いた。

①「7. _____」…ギリシア独立戦争を描き、独立運動支援を高め、当時絵画の虐殺とさえ酷評される激しさを表現した。

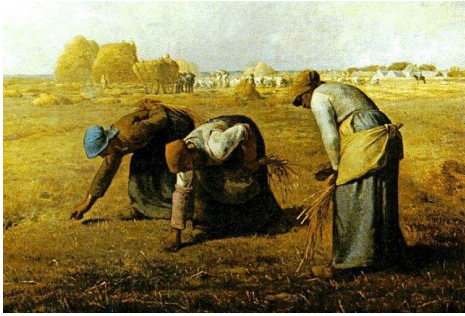

②「8. _____」…1831年、七月革命の市街戦を描いた。

キオス島の虐殺	民衆をみちびく自由の女神
	

3. 自然主義絵画と写実主義絵画

9.	10.
<p>古典主義の理想化やロマン主義の誇張を捨てて、ありのままの素朴な自然の姿を描こうとした美術様式。農村や自然の風景を題材にしたものが多い。</p>	<p>現実の自然や人間の生活を客観的に描写しようとする美術様式。19世紀中頃フランスを中心におこり、社会主義運動と接近したものもあった。</p>

- ①自然主義的芸術作品は、「自然の理想化」と相反するものではない。
 ②自然に価値の原理があるとする点においては写実主義（リアリズム）と同意
 ③「対象物の理想化を許容せず、美醜にかかわらず自然を写す」という意味での写実主義とは矛盾

<p>[11. _____] 「落穂拾い」</p> 	<p>[12. _____] 「石割り」</p> 
---	---

4. [13. _____]

19世紀後半に現れた光と色彩を重視して、対象から受ける直接的な印象を表現しようとした絵画流派。

<p>14.</p> <p>フランス印象派の創始者。娼婦などを描いて物議を醸しだした。</p> <p>『オランピア』</p> 	<p>15.</p> <p>「光の画家」。『日の出-印象』『睡蓮』、『ラ=ジャポネーズ』などが有名。</p> 	<p>16.</p> <p>豊満な裸婦像などの人物画に独自の境地を拓いた。</p> 
---	--	---

5. [17. _____]

19世紀末に印象派から発展した流派。視覚だけにとどまらず、自然の基本的な形と様式の把握にも努めて、自己の感覚の上で構成しようとした。

<p>18.</p> <p>自然を単純化した独自の画風</p>	<p>20.</p> <p>タヒチで未開社会を描く</p>	<p>21.</p> <p>精神錯乱を起こし自殺</p>
<p>19.</p> 	<p>タヒチの女</p> 	<p>22.</p> 